令和４年予備試験合格に向けた理想的な勉強計画

７月　～　１２月末（６カ月）	翌年１月　～　５月中旬（４カ月半）	５月中旬　～　７月９日・１０日付近

総まくり講座７科目→予備試験過去問講座７科目

・総まくり講座を１科目ずつ短期集中で受講する。
　➡該当箇所を短文事例問題で確認するのが望ましい。

・１０月から、総まくり講座で学習したことを総動員するもりで予備試験過去問の演習・分析をする。
　➡公法→刑事→民事という流れで１科目ずつやる。

短答対策

・短答対策と論文対策の比重は、短答の実実力と得意不得意によって異なる。

・本試験が近づくにつれて、短答対策の比重を上げていく。

論文の総復習

・これまでやってきたことの総復習に重点を置き、新しいことは極力やらない。
　➡司法試験過去問も、初見のものであれば、この段階ではやらない方がいい。
・インプットでは、ひたすら総まくり論証集を回しまくる。

労働法速修［導入・基礎編］→重問１００選→［応用編］

・予備試験対策として、司法試験過去問は不要。
　➡予備試験対策として司法試験過去問から学習するべきことは全て、重問１００選に反映している。

論文の復習も最低限やる

・年内に身に付けた知識・方法論・勘が衰退しすぎないよう、論文の復習も最低限やる。

実務基礎科目の対策

・余裕があれば、年内に実務基礎科目の対策もする。
　➡余裕がなければ、翌年１月以降、短答対策と並行してやる。
　司法試験過去問より優先順位が高い。

司法試験過去問

・余裕があれば、司法試験過去問までやる。
　➡予備試験対策として有益な司法試験過去問の一覧はこちら（後日、掲載）